

慈眼寺

整備だより

第八号
平成十六年七月
慈眼寺整備委員会
委員長 大野悟

ごあいさつ

整備委員長 大野悟

梅雨もあけ 毎日暑い日が続いておりますが、檀徒の皆様方におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて 今年もお盆が近づいてまいりました。一昨年より新しい本堂でお盆の行事を行っておりますが、今年十一月二十七日、二十八日に落慶式、晋山式を執り行います。二十七日はリハーサルとなりませんが、二十八日は永平寺、総持寺

はじめ、慈眼寺の本寺であります福厳寺方丈様、春日井市内の曹洞宗の各お寺様、近隣のお寺様合わせて五十人の方々のご出席をいただき式典を盛大に開催いたします。又 これに花を添えていただく稚児行列を行います。募集は六月より行っておりますので多数の参加をお待ちしております。

なお 役稚児の方（小学生）を二十名程度募集し本堂内においてお手伝いをお願いしたいと思います。

慈眼寺三百年に一度の大事事です。檀家の皆様、家族そろっての参加を、お待ちしております。

最後に 四ツ谷の山城様より枝垂桜の大木のご寄付を頂きましたので、本堂の西側に植樹いたしました。住職と水の管理を、来年の春には立派な花を咲かせるよう努力いたします。



稚児行列の募集

委員長の挨拶にもありましたように、十一月二十八日の落慶・晋山式を慶祝して稚児行列を募集しております。五百名位を予定しております。ご希望される方はお早めにお申し込みください。

参加費（一人当たり）

役稚児 一万円
一般稚児 5千円

申込所

慈眼寺

農協 関田支店

〃 不二支店

瀬戸信 春日井支店

〃 神領支店

集合 下市場公民館

出発 午前九時半

行程 慈眼時まで約

五百メートル

駐車場はユースストア

さんを予定中です。

墓参・思うこと

篠木町 大野昱郎

身近な故人の墓に、毎月お参りするようになって、もうどのくらいになるのだろうか。生前、母が自転車に乗ることが出来ないで、徒歩で毎月欠かすことなく、花と線香と数珠を持って、墓参りに行く姿を見ていました。時たま、私が自動車で送り迎えをしたこともありました。このように、生活を共にしている家人が、誰を誘うのでもなく、頼むのでもなく、ただ黙々として墓参を続けている姿に接しているうちに、つい私も同じように、墓参りをするようになってしまいました。

つくづく、感化とか影響という力は、実に大き

いということを知りました。私自身顧みまして、ずっと若い頃には、祖先や身近な故人を崇めたり、礼拝する気持ちは殆どありませんでした。かといって、反発したり卑下する心もありませんでした。ところがここ二十年ほど、朝の仏壇への供膳そして命日ごとの墓参りが、完全に生活の一部になってきています。それは、特に何を希うわけでもありませんが、合掌していると、故人にかかわる事柄を思い巡らせたり、懐かしさに浸ったりしています。そしてこうした行為を繰り返しているうちに、なんとなく心がすっきりしてきます。やはり信仰の力なのでしょうか。

ところが、一部の人々

は「日本人はどちらかと言うと、無宗教に近い」と批難します。私は、これが大きな誤りだと考えています。近代の日本人は、自ら信仰する宗教について、誇大に宣伝したり、他の宗教を極端に排除したりする民族ではありません。ですから、どんな宗教に属しているのか、どの神や佛を崇めているのか、はつきりと判りにくいことはあると思われまます。しかし斯うした姿勢が直ちに、信仰が浅いとか不熱心であることとは全くちがいます。現に、月々の墓参の折にたくさんの方の墓参りに会います。自らのつたない実践にふれての所感を記しました。

祈慈眼寺隆盛

祈郷土下市場発展
(大野氏は前市教育長)

慈眼寺の本堂・客殿と同じ国産の最高級木材を使って 格安で一般建築も
請け負います ぜひご相談ください

桧のにおいのする本格的な木造住宅

有限会社 **田辺建設** 電話 0533-86-5475

落慶・晋山式

おかげさまで境内整備事業の工事も平成一五年度で完了し、十一月には、晋山式を兼ねて落慶法要が行われます。

大まかな説明をさせていただきますと、十一月二十七日(土)には、首座(しゅそ)入寺式といって、新しい住職の弟子になる青年僧が最初に慈眼寺に入る儀式です。簡単な披露のあと、翌日の儀式のためのリハーサルなどが行われます。翌二十八日には、九時から落慶法要が、十時半からは晋山式が行われます。晋山式というのは、新任の住職(新命…しんめい)の就任式で、この朝新命和尚は、親元または安下処(あんげしょ)といわれる宿を出発し

て盛装して山門へ向かいます。親元というのは他所から来た僧侶を、住職として受け入れるいわば身元保証人という意味のようです。この行列の先頭に御詠歌隊と稚児行列が立ちます。新命が本堂に入った後は、本尊様にご挨拶する儀式や、仏法について問答が行われます。一連の儀式のあと感謝状の贈呈や本山御専使の祝辞などが続きます。

午後は、首座法戦式(ほっせんしき)が行われます。新命住職は、就任と同時に修行僧を集めて修行の指導をするのですが(これを結制といいますが)、その住職に代わって筆頭弟子の首座和尚が問答を戦わせ力量を示すのです。



日本人の宗教心

檀方総代 伊藤昌美

これまであまり宗教について感心のなかつた私も、あるとき日本人の宗教に関する調査資料を見て、初めて日本人の宗教観を知りました。その調査によると、全体の約七割の人たちは「無宗教」だと答えています。しかしその一方で、無宗教だが「宗教心」は大切だと思う人が過半数を占めていました。こうした傾向はどの機関が調査してもほぼ同じだそうです。

ここである「無宗教」とは、多分「特定の宗派の信者ではない」と言う意味であるのかと思われまます。つまり、一般的に宗教とは、キリスト教、仏教、イスラム教を代表例として新興宗教を含んだ、教祖、経典、教団の三要素で成り立っ

ていますが、そういった宗派の信者ではないと言うことだと思いません。では、宗教心とはなんでしょうか。例えば正月の初詣に始まり、お盆やお彼岸の墓参りなど年中行事の繰り返しの中で、祖先を敬い心の平安の素になる「あるもの」、これが即ち「宗教心」なのではないでしょうか。この「あるもの」とは自然発生的なもので、ときには神を、ときには仏をお参りする事によって、先祖を大切にする気持ちや、家族の安泰を願う気持ち、さらには自身のやすらぎを願う「心」を持った日本人が多数いると言うことだと思いません。もっとも、生涯一つの宗教しか持たない大多数の外国人は、神も仏も拝む日本人を「フアジ」だと言います。つまり

「あいまい」ということですが、それは、自称無宗教者が七割もいるということの裏返しかも知れませぬ。

明治の文豪で軍医でもある森鷗外が、日清戦争従軍後書いた「かやうに」という本の中で「そこに祖先の霊があるかのように崇拜することこそが大切」、



FC 勝川店
大島 安次郎
代表取締役
宅地建物取引主任者

株式会社光コーポレーション
春日井市八光町1丁目17番地
〒486-0916
TEL 0568-36-2333 FAX 0568-36-2332
愛知県知事(1)第18279号
携帯:090-1827-0731

**アパート
マンション
店舗、事務所
売買**

と云っております。これは同時代のドイツの哲学者フラインヒーターの「かやうの哲学」に同調するもので、若干ニュアンスは違つかもしれませんが、要するに「かやうの精神」は昔も今も変わらぬ「日本人の宗教心」だと思えます。

私たち日本人は、そこに確実に神や仏の霊が存在するとは信じないまでも、そこに神仏の霊があるかのように拝むことによつ

観月苑について

本堂の西側、昔「むし
ようば」という境内墓地
のあった所に「観月苑」
という石柱と、五本の台
杉に囲まれて、円形の玉
砂利槽の中に観音様の
立像が建っています。



これは、合祀墓（ごう
しばか）で、一種の共同
墓地です。何らかの理由
で、個別の墓地を持たな
い人、またはお墓の面倒
を見てくれる人が無くな
った場合、個人で入れ

る墓地というのが歌い

文句です。このように言
うと、身寄りのない人の
ための寂しいお墓のよ
うに聞こえますが、今上
天皇の御製「よものうみ
みなはらからと・・・」
のような気持ちで楽し
く集おうと言う趣旨で
す。「観月苑」と言う名前
も「みんなで露天風呂に
入ってお月さんでも見
ようや。」に由来するも
のであります。構造上も
そんなイメージを表わ
して、お骨は直接玉砂利
の下に埋葬いたします。
そんな意味で「露天」な
のです。夏目漱石は家の
風呂より、銭湯のほうが
好きだったそうですが、
そんな趣旨のお墓だと
思ってください。
納骨料は一体五万円
に決まりました。

和尚敬白

住職 春日井浩道

梅雨が明けたか明け
ないのか、蝉の合唱が賑
やかにあって、暑さが本
格になってきました。皆
様方にはご清栄のこと
と存じ上げます。

今からちょうど四年
前、田辺建設の社長にお
だてられて浜松のお寺
を見学したことに始ま
り、翌年の九月には本堂
の解体、次の年のお盆に
は本堂が完成し、それこ
そあれよあれよという
まの出来事でした。大分
先のことだと高をくく
っていたのにもう秋に
は落慶・晋山を迎えるこ
とになってしまいました
た。月並みな表現ですが、
委員の方々のご尽力と
皆様方のご支援の賜物
と感謝しております。

思えば、このあたりも

区画整理が完成し、昔の
面影もなくなってしまう
いました。あたりまえの
景色であった水田も一
部に閉じ込められ、蛙の
声も聞こえなくなりま
した。そして一軒一軒の
家がみんな立派な塀と
門で囲われて、なんだか
立派にはなったが人の
心までが孤立化してい
く過程のように思われ
てなりません。今の六十
歳以上の老人達？には
群れて遊んで成長した
という連帯感もあるの
でしょうが、最近の子供
たちには一緒に外で遊
ぶ習慣もありません。そ
ういうことが都市化と
いうのかもかもしれません
が、何か大事なものが失
われつつあると感じら
れてなりません。

会計報告

会計 伊藤久幸

平成十六年六月末現在の状況について報告いたします。

(収入の部) 寄付勧進の期限は終わりましたが、期限後にも新たにご寄付をしていただく方もあり、現在総口数三九五八、三口で金額一億九千七百九十一万五千円になりました。その他収入と利息を合わせて合計三億千七百七十八万七千四百四十五円になります。

(支出の部) 建物関係で一億九千七百六十七万三千六十九円、外構関係が二千七百六十三万六千六百三十六円、それに記念品関係の支出が七十一万九千二百円です。晋山・落慶式の費用は残額から支弁します。

客殿のご利用について

客殿の座敷は、出来るだけ多くの皆さんに使っていただくことを予定していましたが、ご詠歌の練習以外あまり利用されておりません。ときたま法事の集会所として使われる程度です。せっかく立派な座敷になったことですから多くの方のご利用をお待ちします。利用料金は次のように決まりました。

檀家行事	千円
無収益行事	二千元
収益行事	一万円
いずれも2部屋半日	

編集後記

お寺の整備事業も悉く終わって、今年の秋には待ち焦がれた落慶法要並びに晋山式を迎え

ることになりました。

思えば四年前整備事業が緒について、この「たより」が事業と檀家の皆さんとの架け橋になることを約束して、工事の進捗とともに歩んできました。お陰様で大詰めの大行事をお知らせする運びとなり「よくぞこ」まで「が」、正直な気持ちです。

なお、今回号は終章に近づく「たより」に相応しく、宗教に対する姿勢や心について書いていただきました。今回は勿論、これまでに寄せいただいたきました数多くのご寄稿者に対し深く感謝申し上げます。それは、又次号発行のときはよろしくお願いいたします。(編集子)

お盆のお知らせ

柵経は

下市場地区は十四日
四谷地区は十三日
その他地区の方には戸別に通知させていただきます。
たきました。
時間は各地区とも、ほぼ去年と同じです。

お施餓鬼は受付中です。電話でも結構です。

「慈眼寺整備だより」第8号

発行日 平成16年7月20日

発行人 春日井市下市場町5-7

慈眼寺整備委員会

委員長 大野悟

編集 庶務 伊藤忍

連絡先 電話 0568 81 6801